

ニ涉リ、殆ド獨得ノ研究結果ヲ世ニ公ニセリ。君ノ研究ハ尙盡クル所ヲ知ラズト雖モ、今ニ於テ既ニ學術ノ發展ニ貢獻スル所頗ル大ニシテ、他ノ學者ニ多クノ研究題目ヲ提供セルモノト云フベシ。

山上八郎君著『日本甲冑の新研究』ニ對スル授賞審査要旨

本書ハ本邦甲冑ニ關スル一切ノ事項ニツイテ系統的ニ記述セルモノニシテ、上下二卷凡二千五百頁ノ浩瀚ナル大著ナリ。本邦甲冑ニ關シ、此クノ如キ精細完備ノ著書ハ、今日ニ至ルマデ未コレアルヲ見ズ。此クノ如キ系統的記載ヲナスニハ、多數ノ資料ニ就テ最モ縝密ナル研究ヲ積マザルベカラズ。著者ハ其ノ不斷ノ努力ヲ以テ豐富ナル資料ヲ蒐集シ、科學的方法ヲ以テ之ヲ精査考究シ、殊ニ其ノ資料ヲ主トシテ遺物ニ取り、本邦各地ニ散在セル社寺舊家、所藏ノ遺物ヲ實檢シ、更ニ史籍文書古畫等ヲ涉獵シテ、記録ト遺物トヲ比較シ、又前人ノ考說アルモノハ、必ズ之ヲ遺物ニ參照シテ其ノ正否ヲ判定シ、取捨ヲ定メ、以テ自家ノ考案ヲ立テタリ。其ノ研究ニヨリテ新事實ヲ發見シ、從來ノ臆說ヲ排シテ新タナル見解ヲ下シタルモノ少シトセズ。一ニ例ヲ舉グレバ、著者ハ遺物古畫等ノ研究ニヨリ、從來腹卷ト稱セル甲ハ、南北朝時代以後ニ創製セラレタルモノナリト考定シ、此ノ見解ヲ以テ甲冑ノ沿革ヲ說キタリ。又卯花威ニ就テハ、古記録及ビ理論上ヨリ、其ノ純白ナル威毛ナルコトヲ唱道セリ。其ノ他威毛ノ句ニ關スル新說、鍔形ノ解釋、壺袖ト廣袖トノ區別等、傾聽スベキモノ少カラズ。然レドモ本書ニ採ルベキ所ハ、主トシテ其ノ本邦甲冑ノ詳密ナル系統的記載ニシテ、新說創見ノ如キハ、之ニ附隨セルモノト云フベシ。

今本書内容ノ大要ヲ舉ゲンニ、本書ハ總論、各論ノ二編ヨリ成リ、第一編總論ヲ三章ニ分チ、人類ト戰闘ヨリ説キ起シテ、日本甲冑ノ起原、特色、甲冑ニ關スル儀式、年中行事等ニ至ルマデヲ詳述シ、第二編ヲ五章ニ分チ、小札、威毛、其ノ他甲冑ノ各構成材料ヨリ、鎧、兜、袖、小具足ニツキテ詳述セリ。第一編ノ三章中、前二章ニ於テハ、其ノ説ク所未ダ盡セリト云フベカラズ、尙研究ノ餘地アリト雖モ、後ノ一章タル各説及ビ第二編ノ各章ハ、著者ノ主トシテ研究セシ所ニシテ最モ詳密ヲ極メタリ。

之ヲ要スルニ、從來本邦甲冑ニ關シ、廣ク其ノ一切ノ事項ニツキテ詳述セルモノハ全クコレナカリシニ、著者ガ多年ノ努力ニヨリ、此クノ如ク組織的ニ記述セル大著ヲ完成セルハ、本邦甲冑ノ研究ニ一大貢獻ヲナセルモノニシテ、其ノ功績最モ顯著ナリトス。

醫學博士二木謙三君、醫學博士高木逸磨君、醫學博士谷口臙二君、
及ビ醫學博士大角眞八君ノ鼠咬症ノ研究ニ對スル授賞審査要旨

二木、高木、谷口、大角四君ハ、大正四年八月ヨリ十一月ニ亘リ、鼠咬症患者二例ニ就キテ研究シ、一種ノ「スピロヘータ」ヲ證明シ、患者ノ血液ヲ猿及ビ「モルモット」ニ注射シテ、接種ヲ第三代マデ繼續シ得タリ。而シテ同年十一月二十日、東京醫學會ニ於テ、石原、太田原、故田村三君ノ報告ト同時ニ、患者川上某ノ腋窩腺ヨリ得タル「スピロヘータ」ヲ供覽シテ、此即チ鼠咬症ノ病原體ナルベシトノ豫想ヲ報告セリ。當時發見セラレタル「スピロヘータ」ノ中等大ナルモノハ、九、〇乃至一〇、〇